

保健体育科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
5 校時 13:30~14:20
学校名 中学校
対 象 第2学年5組 36名
授業者 〇〇 〇〇
会 場 校庭

1 単元名 球技 ベースボール型 (ソフトボール)

2 単元の目標

- (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。
- ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができるようにする。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- (3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①「捕る、投げる、打つ」の基本的な動作を理解し、行うことができる。 ②ソフトボールのルールや用語を理解し、練習やゲームを行うことができる。	①自己や仲間の課題を発見し、合理的に解決しようと、知識を活用したり応用したりしている。また、言葉や文章で表し、他者に分かりやすく伝えている。 ②自己の能力や特性に応じたポジションや攻撃を考え、他者に伝えている。	①ソフトボールの知識や技能の習得に向け主体的に活動している。 ②他者やチームの課題解決に向け、協力し、主体的に活動している。 ③健康・安全に留意して取り組もうとしている。

4 指導観

(1) 単元観

ソフトボールは「捕る、投げる、打つ、走る」の四つの基本的な技能から成り立っており、専門性が高く、技能習得に難しさを感じる場合もある。しかし、どれか一つでも習得できればチームに貢献することができ、自己の能力や特性に合わせて活躍することができる。

第2学年では、ソフトボールの基本的なゲームの展開を学習するため、ベースの数やフィールド、プレイ人数など工夫し、「捕る、投げる、打つ」の課題を明確にもたせられるようにしながら、ゲームの進行方法を学習していけるように展開する。

身体接触も少ないため、男女共習での学習がしやすい単元であり、個人の特性に応じたポジションや作戦などを工夫させることで、「主体的・対話的で深い学び」が実践できる授業を展開する。

(2) 生徒観

ア 教師から見た生徒観

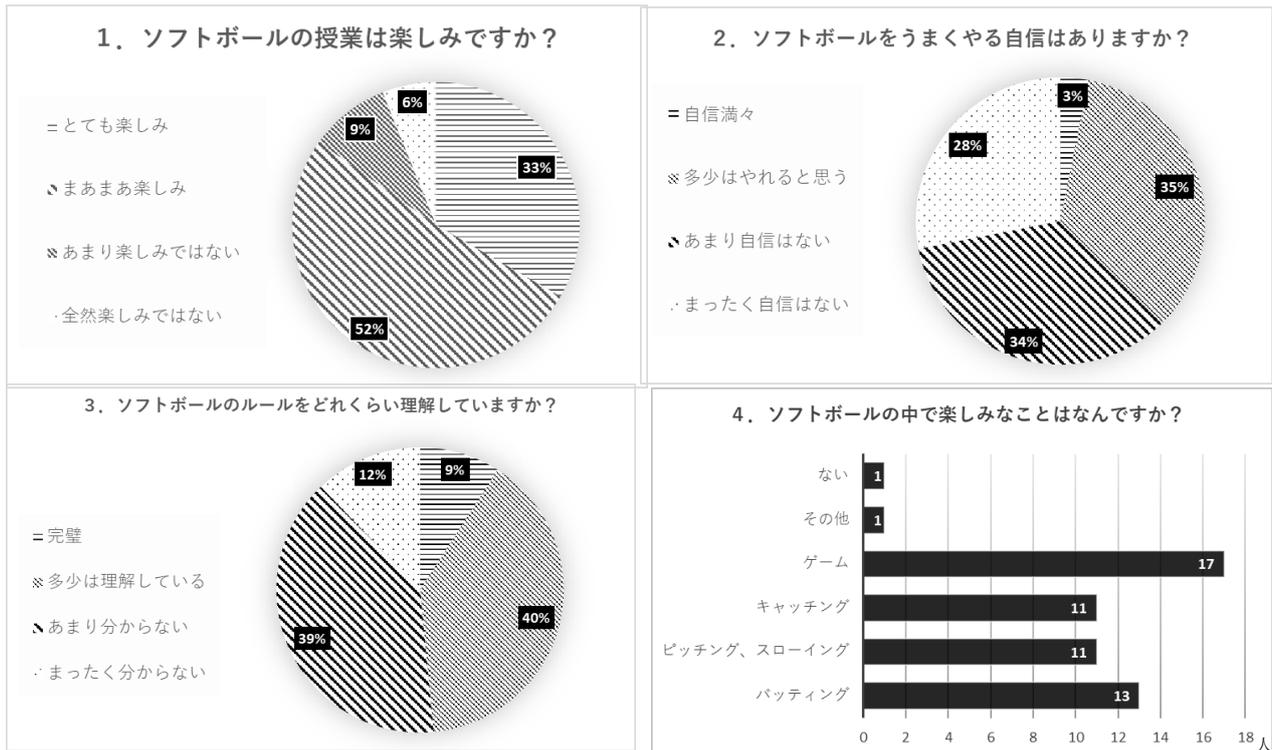
体育の授業は意欲的で、積極的に活動できている。男女関係なく協力し合える雰囲気をもっているが、リーダーとなり、みんなを引っ張るような存在がいいため、主体的な活動には課題がある。ソフトボールはボールやバットなど危険な用具を扱うため、ルールを徹底し、安全に配慮しながら協力して活動できる授業を展開する必要がある。

イ 実態調査

(ア) 調査方法：Google forms にてアンケート

(イ) 調査対象：第2学年5組 在籍36名 回答数33名

(ウ) 調査項目及び調査結果



(エ) 考察

ソフトボールを「とても楽しみ」、「まあまあ楽しみ」と答えた生徒が80%を超えた。しかし、「うまくやる自信があるか？」という質問には「自信満々」、「少しはやれると思う」と回答したのは40%に満たなかった。

またルールについては約半数の生徒が「あまり分からない」、「まったく分からない」と回答しており、基本的な技能やルールの確認に時間を多く使う必要があると思われる。ソフトボールの中で楽しみなことは、ゲーム（試合）が最も多く、基礎的・基本的な技能を高めながら、ルールを工夫したゲームを取り入れていく必要があると推察される。

(3) 教材観

ソフトボールは攻撃と守備を交代しながら、規定の回数（イニング）で得点を競う球技である。「捕る・投げる・打つ・走る」の四つのツールから成り立っており、個人の特性に応じて、活躍の機会が幅広くある。技能としては専門性が高く、反復練習が必要である。特に、「投げる、打つ」動作は躓きが多く、基本の習得からスモールステップを経て習得していく必要がある。新体力テストでも数値の低下が著しい「ハンドボール投げ」の記録向上に向けた一助にもなると考えられる。

また、戦術やポジションについて、チームで課題を出し合いながら、「主体的・対話的で深い学び」に向けた学習が実践しやすい運動種目でもある。お互いに観察し合い、教合い活動を取り入れるなど、工夫しながら取り入れていくようにする。

5 年間指導計画における位置付け

4月	5月	6月	7・8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
陸上競技 （短距離走） 体づくり運動	陸上競技（リレー） ダンス（ソーラン節）	体づくり運動（体力テスト） 保健分野（健康な生活と病気の予防）	水泳 体育理論	器械運動（マット運動） 球技 ベ이스ボール型（ソフトボール）	器械運動（マット運動） 球技 ベ이스ボール型（ソフトボール）	武道（柔道）、球技 ゴール型（ハンドボール） 保健分野（健康な生活と病気の予防）	球技 ゴール型（ハンドボール）、 保健分野（傷害の予防）	球技 ネット型（バレーボール） 陸上競技（長距離走）	陸上競技（長距離走） 球技 ネット型（バレーボール）	ダンス（ヒップホップ） 保健分野（傷害の予防）

6 単元の指導計画と評価計画（全9時間）

時間	1	2	3 （本時）	4・5	6・7	8・9	
目標	「ソフトボールの特性を理解し、安全に取り組む態度を養う」 「スローイング・キャッチング・ゴロ捕球のポイントを理解し、基礎を身に付ける」	「ゴロ、フライの捕球方法を理解し、様々な打球に対応できるようにする」	「バッティングの基礎を理解し、バットを強く振りながらボールを打てるようにする」	「『捕る・投げる・打つ』のレベルアップを目指し、チームで協力して練習に取り組む」	「ワンベースゲームを通して試合の進行、ルールを理解するとともに、ポジションの適正についても理解する」	「ベースを増やし、走塁の判断を理解するとともに、チームで戦術を工夫しながらゲームを楽しむ」	
学習の流れ	10	ウォーミングアップ （ランニング、準備運動、肩甲骨周りストレッチ）					
	20	キャッチボール、30秒クイックスロー					
	30	ソフトボールオリエンテーション、運動種目の説明、安全について	ゴロ捕球について説明、練習 フライ捕球について説明、練習	バットの安全ルールの確認 スイング方法について説明、練習	ゴロ、フライ捕球練習 置きティーバッティング練習 チームミーティング、教え合いタイム	ゴロ、フライ捕球練習 置きティーバッティングゲーム	ゴロ、フライ捕球練習 ベースが1つ増えることで変わること。チーム内で確認。
	40	捕球の基礎についてスローの基礎について	ボール慣れ キャッチボール ゴロ捕球練習	置きティーバッティング練習 置きティーバッティングゲーム	置きティーバッティングゲーム	置きティーバッティングゲーム	ポジションや打順など考えながらゲームに取り組む。
	50	片付け、今日のまとめ					
評価規準（評価方法）	ア	②（観察、学習カード）	①（観察、学習カード）			①（録画） ②（観察、学習カード）	①（録画）
	イ			①（観察、学習カード）	①（観察、学習カード）	②（観察、学習カード）	②（観察、学習カード）
	ウ	③（観察、学習カード）	①（観察、学習カード）	③（観察、学習カード）	②（観察、学習カード）		②（観察、学習カード）

7 指導に当たって

(1) 男女共習について

昨年度より、単元に応じて男女共習で授業を実施してきたため、抵抗なく授業を行うことができる。ソフトボールは習熟度に差が出やすい運動種目になるので、苦手としている生徒に抵抗感をもたせないように、環境や練習を設定し、協力しながら学習を進められるようにする。

(2) 学習カードの工夫

- ・ Google classroom 内に課題として配信し、いつでも記入、振り返りができるようにする。
- ・ 自己評価の点数をレーダーチャートで表示し、視覚的に自身の課題や成長した部分を掴めるようにする。

8 本時 (全9中の第3時間目)

(1) 本時の目標

- ア バッティングの基礎を理解し、バットを強く振れるように仲間と協力しながら練習する。
- イ 安全に配慮しながら練習に取り組むようにする。

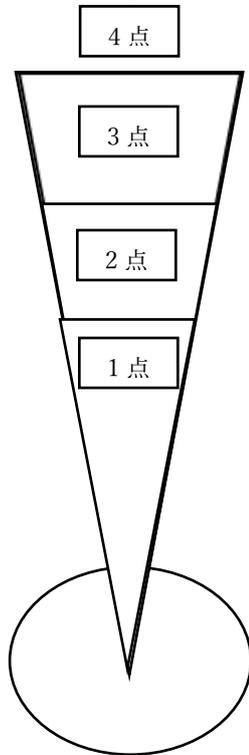
(2) 本時の展開

時間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点 配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○整列・挨拶 ○準備運動、補強運動、ランニング ・準備運動を行う。 ○本時の目標と内容の確認 ・本時の流れを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染対策に準じた行動をとるよう指導する。(手洗い励行、ソーシャルディスタンスの確保、不必要な会話の禁止) ・前時の振り返り、本日の目標を確認する。 	
展開 40分	<p>【個別学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○キャッチボール、30秒クイックスロー ・近い距離から始め、徐々に離れる。 ・向きを揃え、接触などのケガの対策をする。 <p>☆バッティングの学習に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バットの安全な使用について理解 ・バットは決められた場所(円の中)以外では絶対に振らないようにする。 ・移動時は腰より下にして持つようにする。 ・バットは投げない。 など ○バットの振り方 ・握り方の確認を行う。 ・強く振るためのポイントを確認する。 <p>(◆3点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆腕を引く！(トップを作る) ◆足は動かさない！ ◆思い切り振る <p>【グループ学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○置きティーバッティング練習 ・グループごとに、バッティング練習を行う。 ○置きティーバッティングゲーム ・ルール説明(ルールは欄外) ○置きティーバッティングゲーム ○整理運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッチボールでは、スローやキャッチの基本を確認しながら行わせる。 ・クイックスローでは足を動かし、捕る→投げるの一連の動作をつなげて実施できるように指示する。 ・バットを使用する上での注意点を確認し、必ず守らせる。 ・バットを振るための基本的なポイントを3点に絞り、指導する。 ・グループ内でポイントを確認しながら、力強いスイングができるよう、指導する。 ・空振りを恐れず、力強いスイングをするよう指導する。 ・経験者を指導役に任命し、各グループで教え合い活動をするよう指導する。 	<p>ウー③ 健康・安全に留意して取り組もうとしている。 (観察、学習カード)</p> <p>イー① 自己や仲間の課題を発見し、合理的に解決しようと、知識を活用したり応用したりしている。また、言葉や文章で表し、他者に分かりやすく伝えている。 (観察、学習カード)</p>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○片付け、整列 ・後片付けを行う。 ○本時のまとめ、振り返り ・本時を振り返りながら、要点をまとめる。 ○次回の授業内容の確認 ○挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・迅速に片付けさせる。 ・指導したバッティングのポイントや練習で出た課題を振り返らせる。 	

(3) 授業観察の視点

- ア チーム内で協力し、教え合いながら練習に取り組んでいたか。
- イ 安全面に配慮された場の設定になっていたか。
- ウ 教師の説明は生徒にとって分かりやすい説明となっていたか。
- エ 板書は授業を進める上で有効なものとなっていたか。

(4) 置きティーバッティングゲームについて



☆ルール・ポイント☆ 対戦形式（6 vs 6） 打者一巡で交代

【攻撃側】

- ・攻撃側は円の中から打ち、枠内の飛んだ所までが得点として入る。
- ・枠外、もしくは空振りを2度したらアウト（0点）
- ・ダイレクトでボールをキャッチされたらアウト（0点）
- ・チーム全員が交代で打ち、1周したら交代。

【守備側のポイント】

- ・ボールを止めた地点が相手の得点となるためできるだけ前でボールを止めた方がよい。
- ・ダイレクトでボールを取れば失点を防げるため、ポジショニングも考えながら行える。